

熊日出版文化賞を受賞した左から、益城町職員の大沼健太郎さん、高谷和生さん、石牟礼道子資料保存会の阿南満昭事務局長＝9日、熊本市中央区のホテル日航熊本（石本智）

第42回 熊日出版文化賞 贈呈式



第42回熊日出版文化賞  
受賞の3作品を表彰

熊本市

第42回熊日出版文化賞の贈呈式が9日、熊本市中央区のホテル日航熊本であり、受賞3作品の編著者を表彰した。

受賞作は「くまもの戦争遺産 戦後75年 平和を祈って」（高谷和生著、自費出版）、

「残夢童女 石牟礼道子追悼文集」（石牟礼道子資料保存会編、平凡社）、「平成28年熊本地震 益城町震災記録誌」（益城町編集・発行）。

河村邦比児・熊日报社長が受賞者に表彰状と

副賞を贈り、「積み重ねられた努力の成果から、郷土に生きる人や歴史への深い愛情が伝わる」とあいさつ。選考委員長の幸田亮一・熊本学園大商学部教授が選考経過を報告した。

受賞者スピーチで高谷さんは「熊本の若い世代にとって平和継承の基礎資料となり、戦争の実相を伝えることが大事だった」と語り、石牟礼道子資料保存会事務局長の阿南満昭さんは「会ができて5年。初期からの記録が山のようにあり時間

もかかるが、受賞は手伝う人たちの励みになる」、益城町職員の大沼健太郎さんは「町長からは赤裸々に付度なく書くよう言われた。復興は道半ばだが、受賞は職員にとってモチベーションとなる」と述べた。

同賞は県内個人・団体の優れた著作を毎年顕彰。今回は2020年に刊行された約100点から、熊日の社内選考を経て、有識者7人が2月24日の本選考で受賞作を決めた。

（魚住有佳）